

損益状況<連結>

(単位：億円)

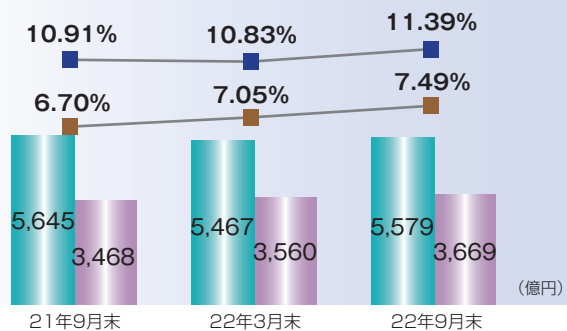
	22年9月期		21年9月期
		前中間期比	
経常収益	1,092	△50	1,143
粗利益	837	△24	862
資金利益	649	△3	653
役務取引等利益	136	△5	142
特定取引利益	6	△2	8
その他業務利益	44	△13	58
営業経費	539	+9	529
コア業務純益	302	△47	350
業務純益※	333	△37	371
不良債権処理額	100	△91	191
経常利益	180	+47	133
中間純利益	100	+43	57
自己資本比率	11.39%	+0.48%	10.91%

※ 一般貸倒引当金繰入前

自己資本比率<連結>

財務の健全性を示す自己資本比率は、22年3月末比0.56%上昇し11.39%となりました。利益の積み上げにより内部留保が増加したことでTier1は22年3月末比109億円増加し3,669億円、自己資本は111億円増加し5,579億円となりました。

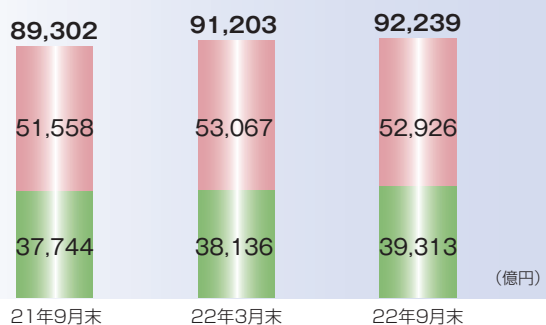
■ 自己資本 ■ Tier1 ■ 自己資本比率 ■ Tier1比率



預金(含む譲渡性預金)<2行合算>

個人のお客さまを主体に、預金は引き続き増勢基調であり、22年3月末比1,036億円増加の9兆2,239億円となりました。

■ 北陸銀行 ■ 北海道銀行



当社における22年9月期の連結業績につきましては、経常収益は前中間期比50億円減少し1,092億円、経常利益は同47億円増加し180億円、中間純利益は同43億円増加し100億円となりました。

市場金利の低下につれ貸出金利が引き続き弱含みで推移しており、外国為替売買益の減少も加わり、経常収益は減少いたしました。営業人員の強化や、平成23年度更新予定の基幹システムの開発費用により経費は増加したものの、不良債権処理額の減少等もあり経常利益は増加しました。

自己資本比率は、利益の着実な積み上げにより前中間期末比0.48%上昇し、11.39%となりました。

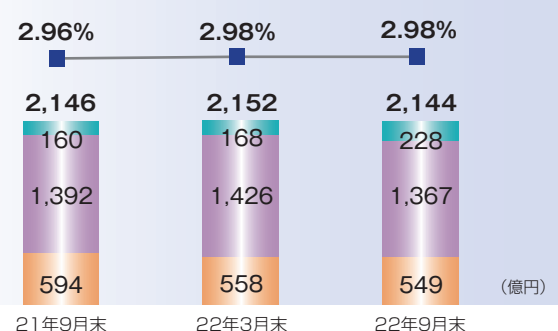
普通株式配当につきましては、自己資本の状況を踏まえ、期末一括配当1株あたり3円50銭を予定しております。

なお、優先株式は所定の中間配当としております。

金融再生法開示債権<2行合算>

景気の低迷が長引いておりますが、金融再生法開示債権は22年3月末比8億円減少し、2,144億円となりました。開示債権比率は2.98%と引き続き低位に推移しております。

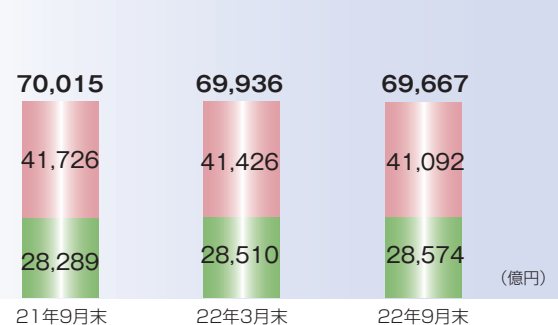
■ 要管理債権 ■ 危険債権 ■ 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ■ 開示債権比率



貸出金<2行合算>

個人ローンは引き続き残高が増加しているものの、長引く景気の低迷により事業性の資金需要が回復せず、貸出金は22年3月末比269億円減少の6兆9,667億円となりました。

■ 北陸銀行 ■ 北海道銀行



損益状況

(単位：億円)

	22年9月期		21年9月期
		前中間期比	
経常収益	550	△24	575
コア業務粗利益	441	△12	453
資金利益	361	△3	365
役務取引等利益	66	△2	69
特定取引利益	5	△2	8
その他業務利益	6	△3	9
経費	265	+7	258
コア業務純益	175	△19	195
業務純益*	168	△21	190
与信費用	29	△40	70
経常利益	121	+23	98
中間純利益	72	△3	75
自己資本比率	11.27%	+0.71%	10.56%

* 一般貸倒引当金繰入前

連結経常収益	551	△25	577
連結経常利益	121	+25	96
連結中間純利益	72	+30	42

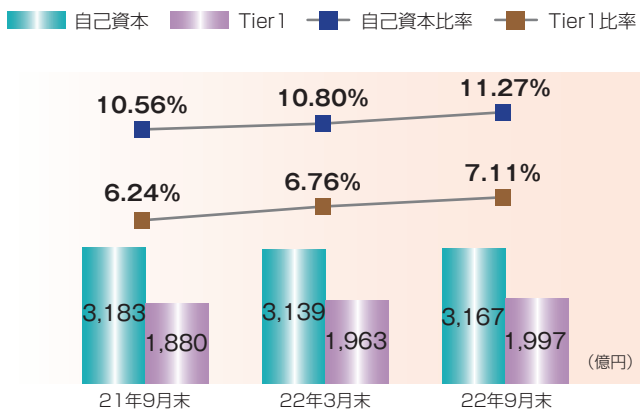
コア業務粗利益は、資金利益や役務取引等利益の減少を主因に、前中間期比12億円減少の441億円となりました。経費は新卒採用増加や23年度のシステム更改に向けた投資等により増加し、その結果、コア業務純益は、前中間期比19億円減少の175億円となりました。

与信費用の減少もあり経常利益は前中間期比23億円増加の121億円となりました。

連結経常収益は前中間期比25億円減少し551億円、連結経常利益は25億円増加し121億円、連結中間純利益は30億円増加し72億円となりました。

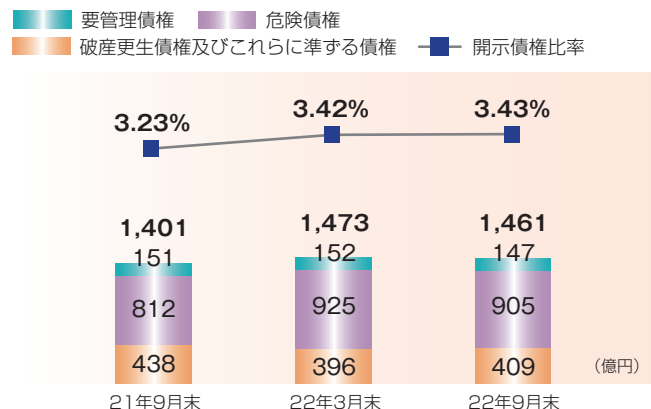
自己資本比率

自己資本比率は、利益の積み上げにより、22年3月末比0.47%上昇し、11.27%となりました。



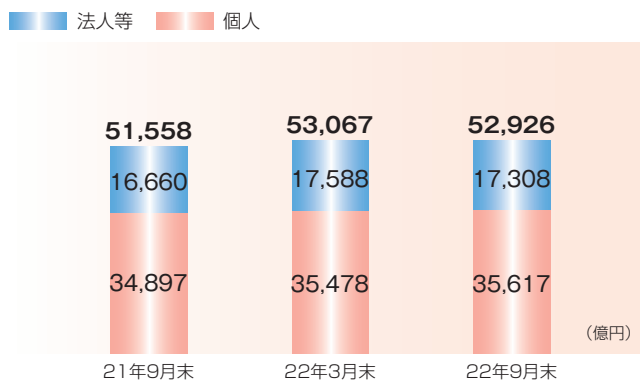
金融再生法開示債権

金融再生法開示債権は、22年3月末比11億円減少し、1,461億円となりました。開示債権比率は、22年3月末比0.01%上昇し、3.43%となりました。



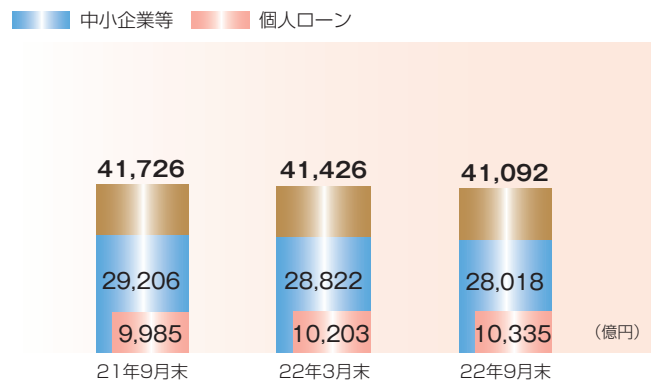
預金(含む譲渡性預金)

預金は法人・公金等で減少し、22年3月末比141億円減少の、5兆2,926億円となりました。



貸出金

貸出金は資金需要の伸び悩みにより中小企業等貸出が減少し、22年3月末比334億円減少の4兆1,092億円となりました。



損益状況

(単位：億円)

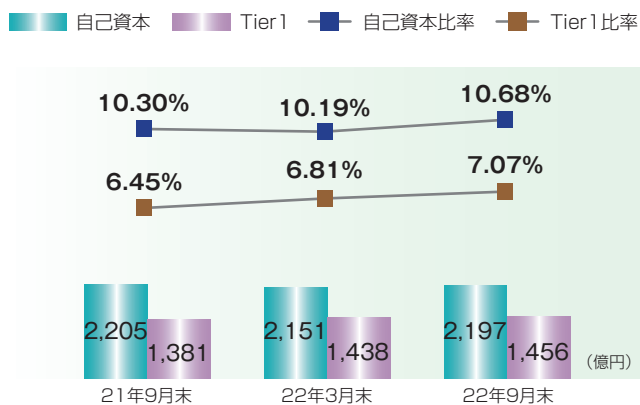
	22年9月期		21年9月期
		前中間期比	
経常収益	448	△20	469
コア業務粗利益	319	△23	342
資金利益	287	△0	287
役員取引等利益	41	△2	44
その他業務利益	△9	△21	11
経費	218	+5	213
コア業務純益	100	△29	129
業務純益 [※]	137	△15	152
与信費用	53	△44	97
経常利益	66	+23	43
中間純利益	39	+1	38
自己資本比率	10.68%	+0.38%	10.30%

※ 一般貸倒引当金操入前

連結経常収益	460	△20	481
連結経常利益	65	+22	43
連結中間純利益	37	+1	35

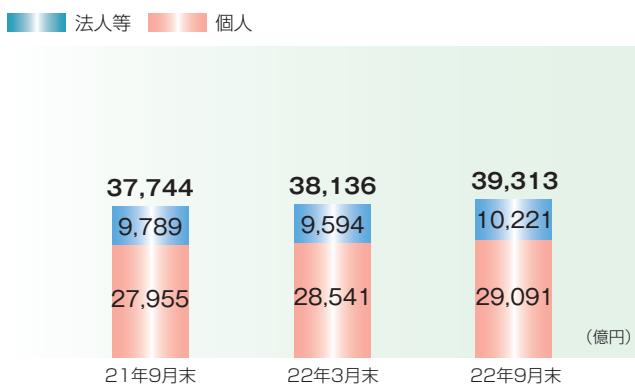
自己資本比率

自己資本比率は、利益の積み上げにより、22年3月末比0.49%上昇し、10.68%となりました。



預金（含む譲渡性預金）

預金は、個人預金の増加により、22年3月末比1,177億円増加し、3兆9,313億円となりました。



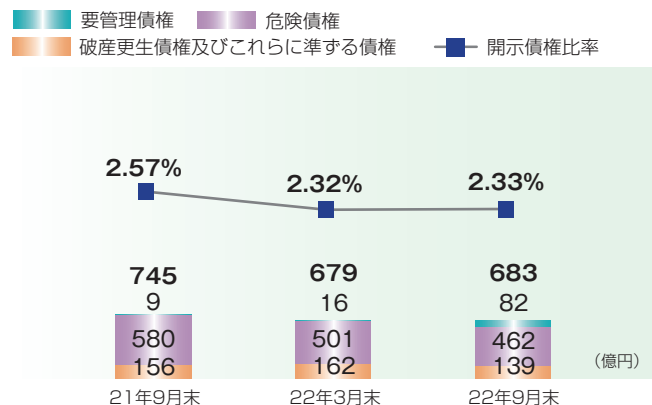
コア業務粗利益は、資金利益は微減に止まったものの役員取引等利益、その他業務利益の減少により、前中間期比23億円減少の319億円となりました。経費は、23年度のシステム更改に向けた投資等により増加し、その結果、コア業務純益は、前中間期比29億円減少の100億円となりました。

与信費用の減少もあり経常利益は前中間期比23億円増加の66億円となりました。

連結経常収益は前中間期比20億円減少し460億円、連結経常利益は22億円増加し65億円、連結中間純利益は1億円増加し37億円となりました。

金融再生法開示債権

金融再生法開示債権は、22年3月末比3億円増加し、683億円となりました。開示債権比率は、22年3月末比0.01%上昇し、2.33%となりました。



貸出金

貸出金は、資金需要の伸び悩みにより、中小企業等貸出が減少しましたが、公金向け貸出の増加により、2兆8,574億円となりました。

